四日市市の法定都市計画の変化とそれに伴う土地利用の特徴についての研究

文化創造研究科文化創造専攻都市環境デザイン領域
13001CUM 朝倉正貴

修 士 論 文 要 旨

四日市市の都市形成で役割を果たした都市計画や土地利用構想について考察した。研究の目的と方法（第１章）は、四日市市の都市計画が土地利用にどのような影響を与えたのかを研究の目的にし、方法は、四日市市の都市計画を戦前からどのように変化したかを考察した。

第２章では、戦前四日市市がコンビナートを誘致させるまでの法定都市計画の変遷を書いた。1927年、四日市市は、都市計画法が適用されることになった。1928年に最初の都市計画区域が設定された。四日市市は、臨海部を含めたより広範な工業開発を目的としていたために、都市計画区域との整合を図るため、周辺市町村との合併を急いでいることが分かった。1933年に都市計画法が改正され、都市計画区域の指定は原則として行政区域とすることになったため、さらに、周辺町村との合併を促進させている。こうした市町村合併により、四日市市の都市計画は、より広域的で、一体的な都市計画が可能となったと考えられる。1936年に、四日市市での用途地域が指定された。これにより、どのような土地利用計画になっているかを見ると、四日市港を中心とした臨海部と塩浜の臨海部の北側地区が工業地域に指定されている。内陸部については、北部の富洲原地区と塩浜駅の西側地区の内陸部も工業用地に指定されていることがわかる。用途地域指定で、特徴的なことは、職住近接を考慮して、工業地域と住居地域が隣接して指定されていることである。

戦前の四日市市の法定都市計画上の大きな変化は、第二海軍燃料廠の進出（1941年開庁）によって引き起こされている。土地利用計画上の変化を見るために、1936年の都市計画用途地域図と1941年の都市計画用途地域図の比較を行った。これにより、第二海軍燃料廠が立地した塩浜地区全体が工業地域に変更された。具体的には、塩浜地区臨海部で無指定地域だった地区がすべて工業地域に変更されるとともに、隣接した西側地区も工業地域が拡大している。

街路計画は南北の幹線道路と臨海工業地域からの東西道路を基本としているが、大きな変更は見られない。第二海軍燃料廠の臨海用地と内陸用地を結ぶ街路の線形が一部変更されるとともに、事業実施されていることがわかる。この道路は、完成後、海軍道路と称された。

戦前の都市計画では、公園の事業予算はほとんどなかったことから、四日市市では公園計画は策定されていない。1939年の都市計画法改正により、緑地が都市計画施設として採用されることになったが、四日市市では緑地計画は策定されなかった。

第二海軍燃料廠が立地したことでの変化としては、1942年に新興工業都市に指定され、膨大な土地区画整理事業が計画されたことである。すぐに戦争が始まったこともあり、そのほとんどは事業実施に至らなかったが、その計画内容から、当時の計画的な考え方を知ることが出来る。この土地区画整理事業の構想のいくつかは、戦後の都市計画に引き継がれていることがわかった。

第 3 章は、1960年の総合開発計画、1962年の用途地域の指定、1968年の新都市計画法による用途地域、1965年の四日市市公害対策マスタープランについて考察する。1960年の総合開発計画は、島状にかためて近隣住区を作り、その合間に公園緑地を作る平面プランである。そこに網目状の交通網が巡らされている。1962年の用途地域は、工業地域は、住居地域の範囲と入り組んでいる部分がある。住宅と工業地域の線引きがない。また都市計画公園も全体的に少ない。1968年の新都市計画法による用途地域は、1965年の四日市市公害対策マスタープランは、　この計画の特徴は、第一に大気中の硫黄酸化物の等量線によって①公害発生源を含む重化学工業の立地できる「重化学工業地域」②ある程度公害の及ぶ「公害影響地域」③公害の及ばない「新住宅市街地域」の 3 つの地域に区分された。公害対策マスタープランによって、塩浜、午起、雨池、平和の土地区画整理事業など 6 つの計画事業が行われた。それらの計画は、住宅の集団移転によって、緩衝緑地や共同福利施設などにすることにされた。

また、1965年の四日市市公害対策マスタープランは、目標からは「未完の計画」，今日の都市構造に影響を与えたという点では「実現した計画」，そして公害被害住民にとっては「幻想の計画」であると波多野は指摘する。

第 4 章で、これからの四日市の都市構造について少し提案する。四日市市の現在の都市構造は、交通の発展に伴って西部の内陸に住宅地が楔状に広がっている。臨海部は、ほとんど工場地であるため、住民はあまり行かないなど、臨海部はにぎわいがない。山間部は、土地を求めて、開発の圧力がかかり、自然が失われる。これからの都市計画のポイントは、二つで、まず、産業構造の変化を伴い工場地に変化がある。次に、公害のイメージがある塩浜に誰もすみたがらなくなり、このままでは少子高齢化が進むため、住宅地に変化がある。